

「道徳教育指導論」における授業時間外学習の促進の工夫と課題

学校教育講座 杉田浩崇

1. 授業の概要

「道徳教育指導論」は教育学部の2回生を対象とした教職科目である。あわせて看護学科の学生も受講している。今年度の受講者数は91名であり、大学院生も含まれている。

「道徳の時間」に限らず、道徳教育は小・中学校のすべての教員が担当することになる。大学においてその能力を養成する科目は「道徳教育指導論」が唯一と言ってよい。そこで本授業では15回を、以下の三つに分けている。①学習指導要領の解説、日本の道徳教育の歴史的・国際的な特徴の提示を通じて、学校教育における道徳教育の位置づけを知る知識獲得の段階、②インカルケーションやモラル・ジレンマ授業など、様々な道徳教育の理論・方法を学ぶ段階、③道徳授業の疑似体験や指導案作成を通じた方法の体験・活用段階である。基礎的知識の習得から指導案の作成へと段階を踏むことで、道徳教育を担当する教員に必要な知見の習得が狙いである。

また、具体的な道徳資料の活用の仕方や論争的な道徳的課題について、アクティブ・ラーニング（グループ活動、ディスカッションやケース・メソッド教授法）を取り入れ、関連する課題を与えるなど、学生が能動的に授業に取り組むことのできる工夫を行っている。

2. 授業時間外学習の促進のための工夫

1) 工夫の概要

本年度はとりわけ、授業時間外学習の促進のために取り組んだ。具体的には、(1)「授業参画シート」を用いた形成的評価の実施、

(2) Moodle を活用した予復習の機会提供と小課題の実施である。

(1)「授業参画シート」を用いた形成的評価

学生に「授業参画シート」と呼ばれるA3一枚のシートに毎回の感想や質問を記入してもらい、そこに私がコメントを付して次の回に返却している。最終的に学生は、毎回の自分の感想とそれに対する私のコメントを一枚のシートで見ることができる。さらに、そのシートの裏には授業中の発言や Moodle 上

の発言を書く欄を設け、学生には自分の取り組みを記すことが期待されている。いわばポートフォリオのような役割を果たしている。学生には最終回にそれらの記述に基づいて自己評価をつけてもらい提出してもらった。

「授業参画シート」は昨年度導入し、一定の評価を得た。今年度は授業時間外学習を促進するための形成的評価を行うという観点で活用した。具体的には、理解不足と思われる学生や質問のある学生に補足や追加情報を書き入れて返却することで、学生の理解度をチェックするとともに、授業内容理解の保障や発展的学習の促しを行った。

(2) Moodle を活用した予復習・小課題

昨年度より、Moodle に毎回の授業のまとめと関連 URL・ファイルのアップを行っていた。また、任意課題として授業に関わる課題を「フォーラム」として設け、学生に意見交換を求めていた。それらは、授業の復習と発展的な学習を促すための工夫であった。しかし、実際に Moodle を活用して授業を復習したり、任意課題に取り組んで発展的な学習を行う受講生は少なかった。そこで、授業時間外学習をより促進するために、今年度は①授業で使うパワーポイント資料の Moodle 上へのアップ、②Moodle 上での合計3回の小課題に新たに取り組んだ。

①：Moodle に次回の授業で使うパワーポイント資料をアップし、受講生には事前にダウンロード・印刷をして授業に臨んでもらった。印刷をする手間や費用もあるため、授業内のタブレットやノートパソコンでの閲覧を許可し、また印刷したものも数十部準備していった。海外の大学を視察した際、同様の取り組みが当たり前に行われており、受講生は事前にある程度の準備をして授業に臨んでいた。すぐには受け入れられないと思っていたが、受講生が能動的に授業に臨むスタイルを築きたいと考え、実施した。

だが、この工夫で期待したのは、事前に資料に目を通すことで、見通しや疑問点をもち授業に臨むことだけではない。Moodle にア

ップされている前回のまとめを見る機会をつくり、知識の定着や復習・発展的学習に繋げてほしかったからである。(介護等体験等で欠席した学生への情報提供も兼ねている。)

②: 15回のうち3回分、その日の授業に関連する小課題を Moodle 上で課し、提出してもらった。各自が取得を目指している免許科目と道德教育の関連を考えたり、授業内容の知見を応用して考えたり、教科書の該当箇所を読んで考えたりする課題にした。

2) アンケート結果

今年度実施したアンケートでは、(2)の Moodle を活用した予復習・小課題の効果を尋ねる設問をいくつか設け、また(1)の「授業参画シート」を用いた形成的評価の効果については「よかった」「まあまあよかった」「あまりよくなかった」「よくなかった」の選択と理由の自由記述を求めた。以下、考察する。

まず、Moodle にパワーポイントを事前にアップしてダウンロード・印刷して授業に臨むことは予習につながったのだろうか。

この取り組み自体については、「よかった」「まあまあよかった」という回答が合わせて30名、「あまりよくなかった」「よくなかった」という回答が合わせて40名だった。全体的に評判は悪かったと言える。肯定的な評価の理由としては、「あらかじめ資料に目を通して予習ができる」、「自分の好きなサイズに印刷できまとめやすい」、「タブレットを活用してノートが取れる」、「前時のまとめを見る機会になる」等が挙げられた。一方で、否定的な評価の理由としては、「印刷が面倒である」、「忘れたときに授業についていけない」、「費用がかかる」等が挙げられた。

他方、資料印刷のときに授業の内容に目を通したり、予習につながったりしたことがあるかを問うたところ、肯定的な回答が46名、否定的な回答が24名であった。

以上から、事前に資料を印刷することは、学生に時間的・心理的・金銭的負担があるものの、授業への見通しや予習に繋がる可能性を秘めていると言えよう。ただし、その可能性はいまだ限定的である。改善案として、まとめてダウンロードできるようにすることが挙げられていたが、それだけでなく事前にダウンロードして授業に臨むことの意義が学生に実感できるような工夫(単なる配布資料のアップではなく、事前課題を付すなど)が必

要だろう。また、印刷することが困難な学生への配慮をより充実させる必要もある。

次に、授業のまとめはどれほど復習につながったのだろうか。そもそもまとめを Moodle で見ていたか否かを問うたところ、「毎回見ていた」「ある程度見ていた」という回答が合わせて37名、「ほとんど見ていなかった」「まったく見ていなかった」という回答が合わせて33名であった。見ていた人のほとんどが復習に役立ったと回答しており、授業のまとめは復習に役立つ可能性があると言えよう。しかし、そもそも見ていない人も多くいたため、残念ながらあまり機能していなかった。また、全体的な傾向として、資料印刷に肯定的な人ほど、まとめを見る頻度が高かった。

「授業参画シート」については、「よかった」が33名、「まあまあよかった」が36名、「あまりよくなかった」が1名、「よくなかった」が1名であった。昨年度に引き続き、肯定的な評価が多かった。自分の考えを見られることに抵抗を感じる人もいたが、「自分のコメントに先生からの返事があると学習意欲につながる」や「自分の取り組みや思考を振り返ることができた」といった理由が挙げられ、学習意欲の喚起や自分の学習の振り返りに繋がっていたと考えられる。個々の学生の理解度や疑問点に応じて、知識定着や発展的な学習を図ったコメントを書いた結果だと思われる。

3. 総括

授業時間外の学習を促進するため、「授業参画シート」を用いた形成的評価と Moodle を活用した予復習・小課題に取り組んだ。

「授業参画シート」は昨年に引き続き、学生の学習の振り返りや学習意欲の喚起に繋がっていたことが示唆される。労力も多くかかるが、細やかなフィードバックが学生の学習に繋がると信じて今後も続けていきたい。

一方、Moodle を活用した予復習については成功したとは言い難い。予復習に繋がる意義を感じられる工夫をするとともに、学生の心理的な障壁を取り除く働きかけが必要であると思われる。小課題の効果については、1時間以上の学習時間をかけたり、自分で文献やインターネットを調べたりした学生が多くいた一方で、そうでない学生も多くいた。こうした取り組みの違いが授業内容の理解にどのように結びつくのかを今後見定めていきたい。